

平成 27 年度 プロジェクト研究評価報告

プロジェクト研究課題名	農業・農村の新たな機能・価値に関する研究
研究実施期間	平成25年度～平成27年度
プロジェクト研究の概要	<p>我が国の農業・農村は、食料の安定供給のみならず、国土の保全や水源のかん養、文化の継承等の多面的機能を発揮しており、農業・農村を巡る諸環境が変化の中で、その維持増進を図っていくことが我が国の喫緊の課題となっている。</p> <p>近年、OECD を中心として、多面的機能を保全するための政策のあり方について国際的議論が進展するとともに、多面的機能と密接な関係を有する「生態系サービス」に係る研究が著しく進展し、EU 諸国では具体的な政策の展開もみられる。また、機能・価値に対する国民の志向・評価についても、「幸福度」を利用した研究等も進められる等、国内外で農業・農村の機能・価値に関連した研究が進展している。</p> <p>近年、世論調査の結果等によれば、都市住民を含めた国民の間で、農業・農村の価値が再認識され、「田園回帰」ともいべき動向も見られつつある。国民が農業・農村の有するどのような機能・価値に共感を覚えているのか、環境面、社会面の機能・価値について明らかにすることが求められている。さらに、農業・農村の機能・価値の維持増進を、国民全体の理解と協力の下で効率的・効果的に図る方策を明らかにすることも重要な課題である。これに関連して、民間企業等も、CSR（企業の社会的責任）とともに、CSV（共通価値の創造）の一環として、社会的な価値と企業にとっての価値を両立させ、企業の本業である事業活動を通じて社会的な課題を解決していくことを目指す取組もみられる。</p> <p>また、農村に賦存する豊かな地域資源を最大限活用した新たな価値の創出に向けた取組もみられ、特に、地域資源を持続的に活用しつつ、経済的な価値を地域内で循環させる取組も増え、こうした取組を促進する必要や、こうした国内外における持続可能な地域資源利用に資するため、定量的な評価手法を開発する必要もある。</p> <p>（小課題1）農業・農村の新たな機能・価値の評価手法開発 農業活動・農村での生活が主観的幸福度に与える影響、農</p>

	<p>林業・農山村体験がもたらす影響、農業と疾病・健康との関係、地域のつながりの希薄化が指摘される中で、社会心理学的アプローチを活用した農村コミュニティの価値の解明、民間企業による農業・農村の価値の還元に関する研究成果をとりまとめて、農業・農村の機能・価値を明らかにし、その維持増進のあり方を検討。</p> <p>(小課題2) 地域資源の持続可能性評価手法の開発及び評価</p> <p>農村における地域資源活用の経済性評価をベースに、陸前高田市生出地区におけるバイオマスエネルギーを事例として、コスト削減によって地域経済への経済的影響がどの程度変化するのかを評価。また、GIS (地理情報システム) を活用した地域資源量の分析とそれに基づくバイオエネルギー原料の輸送コスト評価、さらに環境・社会・経済的側面を中心とした持続可能性の評価ツールを開発し、日本におけるツールの試行的運用を実施。また、国際再生可能エネルギー機関 (IRENA) との共同研究により、IRENAからサンプル国として、アフリカのガーナのデータ提供を受けて、実際のデータによる評価を実施。</p>
<p style="text-align: center;">評 価 結 果</p> <p>○評価会議名及び開催日 「農業・農村の新たな機能・価値に関する研究」 平成28年3月18日</p> <p>○評 価 委 員 名 青柳みどり委員 (国立環境研究所社会環境システム研究センター室長) 田中裕人委員 (東京農業大学国際食料情報学部教授) 西澤栄一郎委員 (法政大学経済学部教授)</p> <p>○評 価 基 準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会的ニーズへの対応 <p>S:非常に大きな意義がある A:大きな意義がある B:意義がある C:意義が小さい D:意義は見出しがたい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・政策の企画・立案への貢献 <p>S:非常に大きな貢献が見込める</p>	<p>(小課題1) 農業・農村の新たな機能・価値の評価手法開発</p> <p>【評価項目毎の評価】 () は3名の委員の投票数を示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○社会的ニーズへの対応 A評価 (3) ○政策の企画・立案への貢献 B評価 (3) ○学術面からみた研究成果の評価 A評価 (1)、B評価 (2) ○研究計画・研究資源・実施体制の妥当性 A評価 (1)、B評価 (2) ○研究目標の達成度 B評価 (3) ○研究成果の実績 A評価 (1)、B評価 (2) <p>【総合評価】 () は3名の委員の投票数を示す。</p> <p>2. 目標を達成した (3)</p> <p>【評価委員からの主な意見】</p> <p>○都市の経済活動が大きくなる中、経済活動に反映されないマイナスの側面は非常に大きくなっている。一方、農村の機能や価値は再評価されており、その再評価される機能・価値を改めて見直す活動は今後も重要性を増していくと考えられる。</p>

<p>A:大きな貢献が見込める B:貢献が見込める C:貢献は小さい D:貢献は見込みがたい</p> <p>・ 学術面からみた研究成果の評価 S:学術的に非常に高く評価できる A:学術的に高く評価できる B:学術的に評価できる C:学術的な評価はやや低い D:学術的な評価は低い</p> <p>・ 研究計画・研究資源・実施体制の妥当性 S:非常に良い A:妥当である B:概ね妥当である C:やや妥当でない D:妥当ではない</p> <p>・ 研究目標の達成度 S:達成度は非常に高い A:達成度は高い B:概ね達成している C:達成度はやや低い D:達成度は低い</p> <p>・ 研究成果の実績 S:非常に高く評価できる A:高く評価できる B:評価できる C:評価はやや低い D:評価は低い</p> <p>・ 総合評価 1. 目標を上回った 2. 目標を達成した 3. 目標を下回った 4. 目標を大きく下回った</p>	<p>○今度の人口減少・少子高齢化社会のなかで、地域おこしは重要性を増してくると思われ、また、地方創生の取組みに対して本研究が貢献できる可能性は高い。</p> <p>○主観的幸福度や都市農村格差に関する研究は、新しいアプローチによるもので、評価できるが、これらの成果を基により詳細な評価手法を開発することが望まれる。</p> <p>○個々の研究成果には評価すべきものもあるが、各研究が個人単位で行われており、相互の関連性が薄い。全体として新たな機能や価値として何が提示できたものが何かという点はやや不明確である。</p> <p>○3年間で課題に対する研究業績は十分に蓄積されたが、これらの研究蓄積を活かした、農業・農村の新たな機能・価値に関する評価手法の開発としては、一部で課題が残る。個々の研究を取りまとめ、体系的に考察を行い、従来のような経済評価では計測できない機能・価値の評価手法を確立することが期待される。</p> <p>(小課題2) 地域資源の持続可能性評価手法の開発及び評価</p> <p>【評価項目毎の評価】 () は3名の委員の投票数を示す。</p> <p>○社会的ニーズへの対応 S評価(1)、A評価(2)</p> <p>○政策の企画・立案への貢献 A評価(2)、B評価(1)</p> <p>○学術面からみた研究成果の評価 A評価(3)</p> <p>○研究計画・研究資源・実施体制の妥当性 A評価(3)</p> <p>○研究目標の達成度 A評価(1)、B評価(2)</p> <p>○研究成果の実績 A評価(3)</p> <p>【総合評価】 () は3名の委員の投票数を示す。</p> <p>2. 目標を達成した(3)</p> <p>【評価委員からの主な意見】</p> <p>○バイオマス利用など地域資源の活用は、地域経済だけでなく気候変動対策としても重要な位置付けにあり、期待されている。また、バイオマスの有効利用を図るうえで、資源量の評価は不可欠である。</p> <p>○研究成果の実績としては、論文数や内容が十分であり、高く</p>
---	--

	<p>評価できる。今後は、総合評価ツールを多くの地域で適用し、精度を高めていくことが重要になる。</p> <p>○発電費用の算出やバイオマス資源量の評価、それらの情報をもとにした総合評価ツールの開発は、社会的ニーズへの対応の点からも大きな意義がある。・本課題では、国内研究は木質バイオマスが評価対象であったが、家畜糞尿などそのほかのバイオマスについても評価手法の開発が求められる。今後は他の資源についても取り組むことが望まれる。</p> <p>○IRENA との共同研究による総合評価ツールの開発については、国際機関との共同プロジェクトの側面もあり、海外の研究者との連携を構築している点が評価できる。今後はツールの適用に関する課題を明らかにして、国際的に活用されることが期待される。</p>
<p>今後の対応方針</p>	<p>(小課題1) 農業・農村の新たな機能・価値の評価手法開発 農林業・農山村にあってこれまで見落とされてきた価値について様々な側面から実施した研究成果を相互に関連させ、評価手法等へのとりまとめや、農林業・農山村の新たな価値として、都市住民側からその支援や活用が得られるような分析等を検討する。</p> <p>(小課題2) 地域資源の持続可能性評価手法の開発及び評価 IRENAとの共同研究については、引き続き次期プロジェクトでも取り組む予定であり、その中で精度向上、複数地域での適用を検討中である。バイオマスの対象拡大については、家畜ふん尿等を原料とするバイオガスを対象とした評価を行う。</p>